（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果（児童発達支援・職員）

事業所名	療育サポートセンター KOTOIRO宗像

公表日　2025年　4月　30日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	8	人数が多い時は、部屋の調整をしている。活動内容等工夫して過ごしている。	振り替えをする際に、その日の人数だけでなく部屋の確保を考慮する。集団療育：人数が多い・部屋が狭いと感じる時がある。個別療育：部屋を自由に選択できない。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	7		配置人数は適正でも、子の状態や特性・活動、介助量等によっては、足りないことがある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11	6		階段が急で狭い。抱っこで上がる児は危険。部屋数が足りないと感じる。椅子や机が足りない時がある。清潔は保っているが、洗面所周囲が危険。対応もしているが不十分だと感じる。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12	5	空間に合わせて活動内容を選択している。	空間に合わせて活動内容を選択しないといけないため、心地よいとは言い難い。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	10	7		スペース・部屋が限られるため、運動等の活動や内容の調整が必要。急な対応（クールダウン等）には部屋が足りない時がある。キッチンのある空間も使うため、危険な時がある。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	14	3		振り返りは行うが、建物構造上改善できないものはある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16	1		ご意見は頂戴している。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	5		どちらとも言えない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	11		外部評価をされているのか不明。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	17	0	実施している。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	17	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	17	0		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	17	0		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	16	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	16	0		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	17	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15	2		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	17	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	17	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	17	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	17	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	17	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	17	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	17	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	17	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	17	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	16	0		
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。	9	4		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	11		この1年間は、その経験がない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	17	0	毎回のフィードバックにて実施。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	16	1	チラシ等の掲示。親子療育の機会の確保。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	2		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	17	0		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	17	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	17	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	17	0	KOTOIROの樹の実施。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	17	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	17	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	17	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	16	1		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	10		招待等は経験していない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	16	1		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15	2		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	16	1	看護師がいる。	看護師に任せてしまうことがある。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	16	1		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	16	1		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	15	2		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	15	2		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	16	1		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	16	1		

（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表（児童発達支援・職員）

○事業所名	療育サポートセンターKOTOIRO宗像			
○保護者評価実施期間	2024年　12月　1日	～	2025年　3月　10日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）		（回答者数）	
○従業者評価実施期間	2025年　2月　1日	～	2025年　2月　28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	18	（回答者数）	18
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　3月　15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	⑩職員の資質の向上を図る為に、研修を受講する機会や法人内等で、研修を開催する機会が確保されているか。	週に1回1時間の研修を設けている。 土曜日開所の午後に研修を行っている。 外部研修の助成制度がある。	職員が偏ることなく、それぞれ学びたい研修に参加して欲しい。 計画的に今の研修を継続していく。
2	㉓定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	半年に1回のモニタリングを児童発達管理責任者が行っている。 朝礼時に個別支援会議を多職種全員で行っている。 情報共有も、個別職員・集団職員で行っている、また、集団の日誌をLINEワークスで送り、いつでも確認できる。	継続していく
3	㊴父母の会の活動を支援する事や、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、兄弟同士で交流すｒ機会を設ける等の支援をしているか。	こといろの樹（保護者会）を毎月実施している。 年に一度、先輩お母さんのお話会を企画実施している。 年に数回親子療育を実施している。 親子療育時に、兄弟児さんも参加している。	継続していく コトイロの樹のテーマを決め、計画的に実施する。 保護者様の意見や要望を取り入れる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	①利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	人数が多い時は部屋の調整を行っている。 活動内容等、工夫している。 振替をする時に、人数だけでなく、部屋の確保を考慮する。	個別療育の際は、職員間で部屋割りを話し合って決めている。 集団療育は利用児さんの人数を調整している。
2	③生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	洗面所周囲が危険の為、配慮が必要 階段が急の為、抱っこ児が危険の為、配慮が必要	ヒヤリハット委員会で全員で危険予測する。 朝礼時、ヒヤリハット報告を行う。 抱っこの児童は1階にて.療育を実施。無理な場合は、2人で、階段を昇り降りする。 スケジュール管理し、抱っこ児童が重ならないようにする。 長期休暇時は事前に部屋割りを決める。
3	㉜保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	土曜開所時に兄弟児を交えて療育を行い交流の機会を作っている。	兄弟児交流は継続していく。 学校や地域の保育園との交流を検討する。

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援）

事業所名	療育サポートセンター　KOTOIRO宗像

公表日　2025年　4月　30日

利用児童数　2025年　4月　30日　回収数 20（無回答１）

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	2	0	0	良く動くようになってきたが、広い部屋でも活動してもらっている。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	17	0	0	2	看護師さんの人数がありがたい。個別だが、子1人に対して１・２人で見ていただき手厚いと思う。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19	0	0	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	19	0	0	0	いつも掃除が行き届いている。いつも整頓されていて、心地よく、安心して過ごすことが出来る。	
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	0	0	2	毎回よく見てもらうが、特に詳しく見てもらう機会もあり、その時の状況に応じて支援してもらっている。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	16	0	0	3		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19	0	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18	1	0	0		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19	0	0	0		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4	3	5	7	本人の特性から、個別でやってもらっている。子が乳児のため、ない。	
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19	0	0	0	こちらの要望なども聞き取りしていただき、支援計画をすり合わせて作成していると思う。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	0	1	0	コトイロの樹で、情報を頂けてありがたい。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	18	1	0	0	子どものことだけでなく、自分の愚痴等も聞いてもらっている。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	1	0	0	個別での活動の時など、話を聞いてもらっている。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17	0	0	2	急な振替えも対応していただき、大変ありがたく思っている。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	15	2	0	2	コトイロの樹で、いずれ便秘や偏食などの悩みに特化した会も希望。明るい内容ではなく、吐き出しの場もあると嬉しい。季節ごとに色々なイベントを開催して頂き、ありがたい。保護者会などの開催はされているが、きょうだいへの支援はどうなっているのかなと思う。	兄弟児の支援に関しては、保護者様からご相談がある時にお話しをお聞きし、アドバイスをさせて頂いています。

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	0	0	0	大変速やかな対応でありがたい。LINEが繋がっていて、いつでも相談できるので助かる。	
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18	1	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	16	2	1	0	写真をみられるdropは見にくいので機会があれば見直して欲しい。SNSを楽しみにしている。ダウンロードも楽しみ。	検討させて頂きます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	0	0	0	発声を想定した訓練は分からないが、マニュアルについては説明があった。	一年に２回避難訓練を実施してます。訓練の様子もインスタグラムに載せています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16	1	0	2		一年に２回避難訓練を実施してます。訓練の様子もインスタグラムに載せています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	17	0	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	0	0	3	母子通園かつ事故等の経験がないため、その時の対応がどうかはわからない。	
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか 。	16	1	0	2	行き渋ることはないので、安心感をもって通っていると思う。	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	16	2	0	1	先生やお友達と会うことやその日の内容を伝えると楽しみにしている。まだ話せないのでわからないが、泣かずに通園しているので楽しく通所していると思う。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	19	0	0	0	数カ月に1回、子供の成長具合をしっかりとみて、状況にあった支援をアドバイスしてくれて満足している。とてもありがたい。	

（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表（児童発達支援・保護者）

○事業所名	療育サポートセンターKOTOIRO宗像			
○保護者評価実施期間	2024年　12月　1日	～	2025年　3月　10日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	44	（回答者数）	20(無回答1)
○従業者評価実施期間	2025年　2月　1日	～	2025年　2月　28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	16	（回答者数）	16
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　3月　15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	⑤こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられている。 ⑥事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っている。 ⑦子供のことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されている。 ⑨児童発達支援計画に沿った支援が行われている。 ⑩事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている。	・個別スタッフ、集団スタッフで、毎日ミーティング、療育振り返りの情報共有を図り、ここに合わせた支援及び連携を図っている、 ・定期的に、カリキュラムの会議を行っている。 ・多職種で話し合い、活動プログラム、個別支援計画を作成している。	・個別支援計画に沿った支援を提供できるように、システムを含め記録の工夫を検討する。 ・職員同士が報連相しやすい環境（人数、タイミング、内容）を検討する。 ・集団の振り返り日誌を ・職員間の情報共有として活用しているLINEWORKSを有効に活用する。 ・目標を意識するきっかけ作りを行う。
2	⑯定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われている。	・保護者から相談があった際、その場で答えられることはその場で助言する。その後に、全職種で情報共有し、多職種からの助言を保護者に伝えている。 ・直接フィードバックをすることで、対応が速くなっている。記録して残した方が良いことは、直接助言だけでなく、書面やLINEでお伝えしている。 ・他連携が必要な時は、面談を行うようにしている。	・現在、面談を行うスタッフが少数であるため、相談内容に合わせて面談する担当を交代。必要に応じて、他職種、担当外が面談を行うことで、保護者が相談しやすいようにする。 ・LINEの見落としがないか、返信が遅くないか、すぐに返信できるように、LINEの確認をする。また、的確な返答をするようにする。
3	㉙事業所の支援に満足している。	・毎週行われる研修等により、全職員の専門性を高めるようにしている。 ・個別支援会議を全員で行うことで、利用者様一人一人の特性に合わせた支援ができるようにしている。	・家族の気持ちに沿った支援を継続していく。 ・個々で学び、分からないことは知識を広げられるように職員研修で相談をしたり、外部研修に行くなど自己研鑽していく。 ・事業所アンケートだけでなく、常時アンケート用のポストを設置したり、グーグルフォームでのアンケートを検討するなど、日頃から保護者の方からの意見等をお聞きできるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	⑪保育所や認定こども園、幼稚園との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がない。	・機会が少ない。 ・土曜開所時の兄弟との関わりを地域との関わりという共通認識をもつ	・他園の子たちと交わる場、機会を検討する。（他園のお散歩時間に合わせてお散歩の設定など） ・土曜開所日を利用し、地域開放を行う。 ・地域のイベント（48棟、日の里まつり、ワークショップ、マルシェなど）に参加する。
2	㉑定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対しての発信が不十分である。 （保護者様より→写真を見られるドロップボックスは見にくいので機会があれば見直して欲しい・SNS楽しみにしている。ダウンロードも楽しみという要望あり）	・業務が遂行できず、できていない。業務整理が必要。 ・個人情報の観点から、個々への対応が難しくなっている。	・写真掲載許可の子どもとそうでない子がいるため、集団の写真を分かりやすく変える等の検討を行う。 ・職員が更新の内容を充実させるために再検討する。 ・写真の取り扱い、流れの整理を行う。（業務遂行化） ・IT化
3	⑭事業所では、家族に対して、家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われている	・コトイロの樹を実施しているが、内容の周知不足あり。 ・今年度は、学びにつながる勉強会が少なかった。（情報交換・相談などの座談会が多かった）	・年間スケジュールを立てて、事前周知をする。 ・テーマを保護者の方から募る。 ・正常発達などの勉強会を定期的に行えるように、コトイロの樹の内容を検討する。 ・児発、放デイ関係なく、参加できるように時間帯、テーマの設定や参加者の駐車場の確保などの準備は必要。

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス・職員）

事業所名	療育サポートセンター KOTOIRO宗像

公表日　20025年　4月　30日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	10	部屋や活動時間の調整。	部屋の選択が限られる。集団療育と個別療育とで調整できても、急に別室対応したい時などが難しい時がある。部屋数が足りないと感じる。集団療育の人数により、狭いと感じる日がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	10	6	必要人数以外にも、専門性のある職員も一緒に集団療育を行うことで、より良い支援方法を行うことがでいている。	配置数は適切でも、個人の特性や活動内容により、その日その時に十分でない時がある。個別療育が多い日・時間帯で調整が難しい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11	5	棚や机・椅子の数が足りない時がある。1階は車いすのまま入れるようにはなってる。	階段が狭い。抱っこで上がる時が危険。聴覚過敏のある子にとっては、他室の音が気になり集中できない。集団療育は、日によって荷物棚が少ない時がある。ややガタつく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	5	床がクッションで柔らかい。空間に合わせた活動の選択をしている。洗面所周辺は工夫している。	その時の空間に合わせた活動を選択しているが、制限があり心地よいとは言い難い。工夫している点はあるが、十分でない。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	6	部屋が足りないときがある。	キッチンのある空間も使用するので、時に危険。クールダウンしたいのに空室がない時がある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	14	2	朝のMT時に実施している。	振り返りはしているが、現場での意見が通りにくい・言いにくい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	1		振り返りはしているが、現場での意見が通りにくい・言いにくい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	6	必要に応じ面談を行っている。	年1回は面談があるが、意見が通りにくい・言いにくい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	9		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	16	0	週１の研修＋土曜開所時に実施。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	16	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	16	0	職員全員で会議している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	16	0	職員全員で会議している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	15	1	職員全員で会議している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	14	1		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15	1	全職員で全体のプログラムを検討している。それにより、共通認識がもてている。	

援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	16	0	細かい部分は、その日の職員で特性等に応じて工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	16	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	16	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	16	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	16	0	毎朝のMTで申し送りを実施。共通の連絡手段によって、内容を残すようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	16	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	13	2		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	15	1		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	16	0	個別・集団共に担当も参加するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	15	0		医療とはつなりが少ない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	15	1		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	14	2		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9	4	想定した準備はしている。	対称児がいないため、事業所としては未経験。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	12	3		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8	8		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	12	2		人員確保が困難で参加できない時がある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	16	0	集団・個別療育ともに、毎回のFBの時間を確保している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	14	1	KOTOIROの樹の開催。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14	2		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	16	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	16	0		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	16	0	都度面談を行える体制を整えている。相談しやすい雰囲気作りの実施。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	16	0		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	16	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	16	0	SNSの活用。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	16	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15	1		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	10		地域住民との交流が少ない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	15	1	日々の連絡や研修等での周知	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14	2	避難訓練等を定期的に実施。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	15	1	看護職員がいる。	看護職員が配置されているため、専門職に頼りがちになってしまう。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15	1		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14	1		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	14	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	15	1		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	16	0		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	16	0		

（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス・職員）

○事業所名	療育サポートセンター　KOTOIRO宗像			
○従業者評価実施期間	2025年　2月　1日	～	2025年　2月　28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	16	（回答者数）	16
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　3月　15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	㉒日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証改善につなげているか？	・振り返りシートのフォーマットを改善し集団スタッフ、セラピストで共有・意見交換出来るようにした。 ・集団では、個人の記録だけでなく、集団全体での記録も残している。 ・朝のMTGや個別、集団の職員間でも積極的に情報共有を行っている。	・記録の中から抽出し、研修の際にケース会議を設ける。 ・報連相をよりスムーズに行う為に担当職員を視覚的に提示しておく。
2	⑳支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか？	・毎朝全体MTに加えて、集団MTで一日環境設定・職員配置を行っている。 ・前回の振り返りを活かしその日の対応の検討も行っている。 ・振り返りシートを活用しており、全職員で共有しやすい。	・更に詳細な設定（手洗い・トイレ誘導等） 声の掛け合いを徹底（臨機応変に動けるように） ・途中フォローに入る職員と共有しやすくする為にLINEWORKSを活用して事前共有できるようになる。
3	⑫個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	・半年に1回モニタリングにてご家族にご家族に聞き取りを行っている。 ・モニタ前にはスタッフ間で現状を共有し、次の目標を検討している。 ・個別支援会議を職員全体で行い、全員が把握出来るようにしている。個別支援会議でその都度見直しを行っている。保護者のニーズを重要視している。	・今後も継続していきたい ・その子の段階に合わせた目標設定に繋がる ・両親以外の送迎が主の場合モニタリング等上手く出来ない→LINE等を活用して母に送信。日程を予め決め、それまでにゆっくり資料を読めるようにする。 モニタリングの前に支援計画送信。保護者が事前に考えをまとめる事ができるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	③生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障がい特性に応じバリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	・トイレベッドがベビーベットのままの為18歳まで利用する・・・と考えると、ベットの検討が必要。 生活空間に対して、利用人数が多いと設備的に限界がある。	・2階利用が不安な児は、優先的に1階を利用できるようなスケジューリングを行う。 ・ベットの検討・トイレの整理整頓 ・事務室横倉庫の棚　増設　検討中 ・利用時の生活状況を把握し必要な子は2階を利用するが、利用の際のサポートの人を増やす。（あらかじめきめておく） ・トイレ利用のスケジューリング
2	⑧職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	・意見がでた後のフォロー体制が不明。フィードバックが不十分な為結局立ち消えしてしまうことが、多い。急に決定事項として下りてくる為、戸惑う。 ・意見を出す窓口が複数ある為伝えにくい。 ・意見を出しやすいように目安箱を設けているが周知されていない→ヒヤリ用紙に意見スペースを設ける ・稟議書必要な物、必要でないものを明確化して欲しい（テンプレート作成）→時間の削減	・途中経過も共有し、検討する。 ・決定事項に対して、理由や経緯を丁寧に全員へ説明。 全員が共通認識をもって取り組めるようにする。 ・運営会議の内容を直接情報共有する。 （直接現場職員が関わる内容は特に）
3	㊺事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	・地域の子（兄弟児）との関りあり ・全くKOTOIROと関りない地域の人との交流はない	・地域の行事に参加検討 ・地域の人たちとの関わりを交えた活動を取り入れていく （挨拶スタンプラリーなど） ・マルシェ等に出品・参加しKOTOIROを知ってもらう機会を作る。 ・地域の祭り等（神輿担ぎ）に参加

（別紙４）

公表　放課後等デイサービス保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	療育サポートセンターKOTOIRO宗像

公表日 2025年　4月　30日

利用児童数 2025年　4月　30日　　回収数　21（無回答１）

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	1	0	0		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19	1	0	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	2	1	0	入口が混雑することがあり、障害がある子が通りにくいかも。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	19	0	0	1		
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19	0	0	1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	19	0	0	1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	20	0	0	0		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19	0	0	1		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19	0	0	1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	0	0	2	多様な活動内容を企画してくれている。家庭ではなかなかさせてあげられないこともあるのでありがたい。	
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	14	3	3	10		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20	0	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19	0	0	1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	19	1	0	0		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	18	1	0	1	毎回フィードバックがあり、活動内容や良かった点や問題点などを教えてもらって助かる。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	19	1	0	0	こちらの変化に気づき、必要な対応を迅速にしてくれる。頼りにしている。困った時など個別面談の時間を取ってくれて心強い。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19	0	0	1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	16	1	0	3	土曜日の親子イベントでは、兄弟児にもしっかり気配りしてくれ、家族皆で楽しめる。	

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	1	0	0		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19	1	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	18	0	0	2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19	1	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17	2	0	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18	0	0	2		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	19	0	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	1	0	2		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	18	1	0	1	安心しきっている。先生もお友達も大好き。	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	19	1	0	0	すごく楽しみに通っている。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	20	0	0	0	大満足。いつも感謝している。	

（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス保護者）

○事業所名	療育サポートセンター　KOTOIRO宗像			
○保護者評価実施期間	2024年　12月　1日	～	2025年　3月　10日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	57	（回答者数）	57
○従業者評価実施期間	2025年　2月　1日	～	2025年　2月　28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	16	（回答者数）	16
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　3月　15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	⑤こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられている。 ⑥事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っている。 ⑦子供のことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されている。 ⑨児童発達支援計画に沿った支援が行われている。 ⑩事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている。	・個別スタッフ、集団スタッフで、毎日ミーティング、療育振り返りの情報共有を図り、ここに合わせた支援及び連携を図っている。 ・定期的に、カリキュラムの会議を行っている。 ・多職種で話し合い、活動プログラム、個別支援計画を作成している。	・個別支援計画に沿った支援を提供できるように、システムを含め記録の工夫を検討する。 ・職員同士が報連相しやすい環境（人数、タイミング、内容）を検討する。 ・集団の振り返り日誌に進捗状況を追記する。 ・児発と比較すると、放課後デイの振り返り時間が少ないため、ミーティング時間を確保する。 ・職員間の情報共有として活用しているLINEWORKSを有効に活用する。 ・目標を意識するきっかけ作りを行う。
2	⑯定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われている。	・保護者から相談があった際、その場で答えられることはその場で助言する。その後に、全職種で情報共有し、多職種からの助言を保護者に伝える。 ・直接フィードバックをすることで、対応が速くなっている。記録して残した方が良いことは、直接助言だけでなく、書面やLINEで伝達している。 ・他連携が必要な時は、面談を行っている。 ・保育所等訪問時も、職員間での情報共有を行い、学校や保護者の方への助言を行っている。	・現在、面談を行うスタッフが少数であるため、相談内容に合わせて面談する担当を交代。必要に応じて、他職種、担当外が面談を行うことで、保護者が相談しやすいようにする。 ・フィードバックや情報共有の時間、場所の確保を行う。 ・LINEの活用、他スタッフに更なる助言を依頼する。 ・学習面の共有を行う。 ・LINEの見落としがないか、返信が遅くないか、すぐに返信できるように、LINEの確認をする。また、的確な返答をするようにする。
3	㉙事業所の支援に満足している。	・毎週行われる研修等により、全職員の専門性を高めるようにしている。 ・個別支援会議を全員で行うことで、利用者様一人一人の特性に合わせた支援ができるようにしている。	・家族の気持ちに沿った支援を継続していく。 ・個々で学び、分からないことは知識を広げられるように職員研修で相談をしたり、外部研修に行くなど自己研鑽していく。 ・事業所アンケートだけでなく、常時アンケート用のポストを設置したり、グーグルフォームでのアンケートを検討するなど、日頃から保護者の方からの意見等をお聞きできるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	③生活空間は子どもにわかりやすく、構造化された環境になるには不十分である。また、事業所の設備等は、障がい特性に応じバリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切でないことがある。	・お子さんの状態によらず、広く対応できる環境であるが、より個々に応じた対応には難しさあり。 ・限られた空間である。	・玄関の混雑さを回避する方法を検討する。 ・実績サインのタイミング方法を検討し、混雑を避ける。 ・スムーズな検温方法を検討する。 ・その中でも特性に合わせた個々のリスク管理が必要。
2	⑪放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がない。	・交流の場が減った。 ・地域とのふれあいが少ない。 ・情報不足である。 ・他事業所が何をしている分からない。	・散歩やプレーパーク、学校など、交流の機会を検討する。 ・特別開所時に、兄弟児の参加を促す。 ・地域の祭りに参加。出店、みこし等、事業所内活動の延長を検討する。 ・近所の商店に作品を置いてもらう。（おまけ等で使ってもらう） ・事業所同士の交流会を検討、提案する。
3	㉓事業所では、発生を想定した訓練が実施できているが、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定された時や更新されたときに、定期的に、保護者に周知・説明する必要がある。	・契約時のマニュアル説明は出来ているが、定期的のアナウンスは不十分である。 ・避難訓練はしているは、マニュアル更新時に更新内容を職員間でも周知できているか曖昧である。	・モニタリングの時に合わせて定期の周知を検討する。 ・避難訓練で、送迎のアナウンスの練習を検討する。 ・避難訓練時に、内容、避難場所の周知をする。 ・警報レベルによる閉鎖、退園を明確にして周知する。 ・対応マニュアルを職員全員が確実に分かる場所に設置し、保護者の方の問い合わせに対し、スムーズに対応できるようにする。

（別紙７）

公表　事業所における自己評価結果（保育所等訪問支援・職員）

事業所名	療育サポートセンター　KOTOIRO宗像

公表日　2025年　4月　30日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点
環境・運営・体制整備	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	10	3		
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	15	0		
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	14	1		
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14	2		
	5	従業者の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか 。	12	3		
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	5		
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14	1		
適切な支援の提供	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	15	0		
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか 。	15	0		
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	15	0		
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	15	0		
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15	0	人によるが、使えるツールは使用している。	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	12	2		
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	14	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15	0		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	15	0		
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	14	1		支援方法等は話すが、理念を確認出来ていないことがある。
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	15	0		

	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15	0		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	15	0		
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14	0		
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	0		
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	10	5		研修に参加したい。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	14	1		
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15	0		
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	15	1		
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14	1		
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	14	1		理解してもらうためには、もっと説明していく必要があると思う。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	15	0		
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	15	0		
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	15	0		
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	14	2		
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15	0		
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13	2		
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15	0		
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14	1		
訪問先施設への	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	15	0		先生と話せる時は、共有できるが、活動中や授業中だと話すことが難しい。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	13	2		
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	15	0		

説明等	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15	0		
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	15	0		
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14	1		
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14	1		
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14	1		
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15	0		
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	15	0		

（別紙４）

公表　事業所における自己評価総括表（保育所等訪問支援・職員）

○事業所名	療育サポートセンター　KOTOIRO宗像			
○保護者評価実施期間	2024年　12月　1日	～	2025年　3月　10日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	20	（回答者数）	16
○従業者評価実施期間	2025年　2月　1日	～	2025年　2月　28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	16	（回答者数）	16
○訪問先施設評価実施期間	2025年　1月　15日	～	2025年　2月　28日	
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）	33	（回答数）	24
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　3月　6日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	⑨保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子供の支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	児童発達管理責任者のみでなく、関係職員で検討して作成出来ている。	訪問先と個別支援計画書を共有して、同じ目標に対して支援していけるようにする。
2	⑮支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	訪問前後に、訪問員と集団・個別職員で情報共有をしている。記録を事前に確認している。	今後も会議などの情報共有の場を継続できるようにする。
3	⑯支援終了後には、職員間で必ず位置合わせを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	会議や朝礼、個々のやり取りで情報共有をしている。	今後も会議などの情報共有の場を継続できるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	⑫保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	訪問に行く児童は月1回で評価する機会を設けている。	他事業所との情報共有や、訪問回数や支援内容の共有を個別に合わせて行っていく。
2	⑰保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	確認不足だった。	フォーマットを活用して、理念や介入方法などを共有し、訪問先を尊重した支援が出来るようにする。
3	㉘訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	先生が変わるタイミング等で、目標の共有が不足していた。	訪問先と個別支援計画を共有して、同じ目標に対して支援していけるようにする。

（別紙５）

公表　保護者からの事業所評価の集計結果（保育所等訪問支援）

事業所名	療育サポートセンター　KOTOIRO宗像

公表日　2025年　4月　30日

利用児童数　　回収数　22（無回答１）

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	訪問支援に使用する教具教材が整えられていますか。	16	1	0	5		
	2	プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。	19	1	0	1		
	3	事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	21	0	0	0		
	4	保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	21	0	0	0		
適切な支援の提供	5	こどもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思いますか。	21	0	0	0		
	6	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	0	0	0	特性に関する知識が少ない学童の支援員さんとの、橋渡しの役割をしてもらった。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21	0	0	0		
	8	保育所等訪問支援計画（個別支援計画）には、訪問先施設や担任等の意向が盛り込まれていると思いますか。	19	1	0	1		
	9	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18	1	0	2		
	10	保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21	0	0	0		
	11	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。	21	0	0	0		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21	0	0	0		
	13	「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。	19	1	0	1		
	15	必要なときにこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていると思いますか。	21	0	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	0	0	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	21	0	0	0		
	18	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	21	0	0	0		
	19	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21	0	0	0		
	20	事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	21	0	0	0		

	21	保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	20	1	0	0		
	22	保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	21	0	0	0		
非常時等の対応	23	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	19	0	0	2		
	24	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21	0	0	0		
	25	事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	17	1	0	3		
満足度	26	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	20	0	0	1		
	27	こどもは訪問支援を嫌がっていませんか。	20	0	0	1	療育先の先生が来てくれることで安心材料になっている。心強かったと思う。	
	28	事業所の支援に満足していますか。	21	0	0	0		

（別紙４）

公表　事業所における自己評価総括表（保育所等訪問支援・保護者）

○事業所名	療育サポートセンター　KOTOIRO宗像			
○保護者評価実施期間	2024年　12月　1日	～	2025年　3月　10日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	20	（回答者数）	16
○従業者評価実施期間	2025年　2月　1日	～	2025年　2月　28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	16	（回答者数）	16
○訪問先施設評価実施期間	2025年　1月　15日	～	2025年　2月　28日	
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）	33	（回答数）	24
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　3月　6日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	具体的な支援を、適時伝えることが出来ている。	・直接話せる時は話す。 ・姿勢保持や机上課題に必要と思われる道具を実際に持っていきその場で試したり・共有している。 ・相談内容が訪問員が専門外の時は話を持ち帰って担当と共有し、詳細を返答するようにしている。	・もう少し密に共有する場合は、電話で連絡をとる。 ・試した内容が実際にどうだったかを確認する。 ・すぐに取り組めるように、お試しセットを持参しておく。
2	必要に応じて報告書を作成して情報共有を行っている。	・文章が伝わりやすい内容か複数のスタッフで報告書の内容をチェックしている。	・もう少し密に共有する場合は、電話で連絡をとる。 ・必要に応じて、月1回の定期報告をメールやFAXで行う。
3	多職種で訪問することで、様々な視点でみることが出来る。	・課題が出た時に専門のスタッフが訪問できるように調整を行っている。	・療育担当が訪問支援員でない場合、訪問支援員が必要に応じて療育も担当する。情報共有をより密に行える環境を整える。 ・担当以外も含めた会議を開き、全体で情報共有の場を設ける。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	対象児に一番詳しい職員が訪問に行けないことがある。 来てほしい・見てほしい時間に訪問がないことがある。	人員配置等の関係で、訪問に出る職員が決まっている。	・療育担当が訪問支援員でない場合、訪問支援員が必要に応じて療育も担当する。情報共有をより密に行える環境を整える。 ・担当以外も含めた会議を開き、全体で情報共有の場を継続していく。
2	交流級の先生と共有する時間が限られており、話す時間がない	先生と話す時間が設けれない時や地域によっては報告書等を作成し情報を共有している。	・電話や報告書等を作成し情報を共有する。 ・先生と情報共有する時間として、中休みなどを利用する。
3	訪問支援によって、他の子の集中が欠けることがある。	訪問開始前に教室の入り方について確認をしている。その都度、本人の状態や他児童の様子も踏まえて立ち位置や介入の仕方を変えている。	・定期的に教室の入り方や介入方法の報告や確認を行う。 ・状況に応じて介入方法の変更あれば伝えてもらうように依頼しておく。 ・保育所等訪問支援の意図を説明した上で、具体的な介入方法として教室の入り方や立ち位置、介入方法（直接、間接、観察）など方法を決めておく。 ・決定事項を報告書に記載し、情報の共有を図る。 ・訪問開始時のアセスメントシートを作成し、目標設定も明確にする。

（別紙６）

公表　訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名
療育サポートセンター　KOTOIRO宗像

公表日　2025年　4月　30日

利用児童数　2025年　4月　30日　回収数　24

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものですか。	20	4		具体的支援を伝えてもらえるが、一斉指示が中心の学校においては難しいものもあった。具体例を交えた助言でわかりやすい。実際に有効だった支援方法を教えてくれて助かった。具体的なもの使い、なぜ必要か等も説明してもらえてわかりやすかった。報告書が役に立っている。園でも取り入れやすいことを言ってくれる。食事や運動の支援方法をわかりやすく説明してくれる。園と療育のすり合わせが出来て良かった。	交流級では、情報共有できる時間が少なくなりましたが、継続した情報共有や支援を行っていく必要がありますので、情報共有が行いやすい方法を検討していきます。（お電話、メール等）
2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	23	1		療育時の設定等、写真でみせてもらえてわかりやすかった。専門的助言をもらえて助かる。気付かずにいる特性や支援方法を具体的に示してもらい助かる。どの訪問員の方も、専門的な観点での支援方法を提案してくれて満足。児童に合った授業内容にすることが出来た。特別支援教育についても具体的に答えてくれる。その場で話が出来るので、学校生活に活かせる。何を聞いても色々答えてくれる。身体の使い方等、具体的に教えてくれるので、保育に活かしている。具体的に聞くことが出来てよかった。	もっと具体的な支援が出来るように、スタッフ間での情報共有、ケース検討、研修会などを行っています。
3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	19	3		質問によっては後日になることもあるので、担当にも来て欲しい。要点を分かりやすく答えてくれて助かる。その時回答できないことは後日教えてくれる。いつもその場で回答して頂きすぐ実践できるのでありがたい。その場か次回には回答してくれてありがたい。毎回適切に回答してくれる。学校の様子を伝えると、専門的なアドバイスを受けることが出来る。質問にはわかりやすく答えてくれる。情報共有したり、質問し合ったりする時間の設定が難しい。	具体的に説明が出来るように心がけていますが、ご質問、ご相談内容が訪問員の専門外の場合は、訪問後に、専門スタッフに確認するようにしています。更に、支援が出来るように、口頭のみでなく見える化して助言等できればと思います。
4	保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	18	6		保護者の思いなどを聞くことが出来てよかった。訪問が見て欲しい時間でないことがある。指導に取り入れている最中。どうしてもクリアできない課題についての指導アイデアを教えてもらい良かった。学校での困りごとを、事業所や保護者の方と共有していただき、一緒に解決していくような仕組み作りが出来ているのが良い。児童の椅子等も見てもらい、使いやすくなった。困りごとが減り、本人の成長も感じられる。学校での過ごし方にも活かされていると思う。課題等がわかり、解決方法も共有できて良い。園だけではわからないことも知れてよかった。対象児の課題はすぐに解消できるものではないため、長い目での対応が必要。	早期解決できない本児の困り感が多く、継続的な支援、情報共有が必要であると感じています。訪問時間は事前にスケジュールを提示しておりますが、先生方が観て欲しい、活動、教科（単元）があり、スケジュール変更のご連絡があった場合は、出来る限りスケジュール変更を行っております。
5	事業所からの支援に満足していますか。	19	5		保護者に伝えづらい話も聞けたり、支援方法も知れて良かった。メールでの報告も、見返すことが出来て助かる。訪問の際は、積極的に子供達と関わっていただき、ありがたい。児童への適切な支援を知ることが出来て満足している。毎週来校してもらいありがたい。すごく助けになった。どの訪問員の方も、丁寧でわかりやすい。いつも丁寧な対応でありがたい。	訪問先によって、希望される支援、介入方法が異なりますので、先生方と情報共有を行いながら、今以上に分かりやすく、具体的な支援を行っていきます。

その他のご意見	ご意見を踏まえた対応
他児の対応や授業準備と重なってゆっくりと話すことが難しい。放課後の電話等で対応できるとありがたい。対象児の担当と話す機会が欲しい。実際に支援しているところを見て勉強したい。児童に合わせた言葉を意識しているが、客観的な意見も欲しい。頻繁に様子をみてもらい助かる。情報交換が出来てありがたい。別の視点・角度から児童をみてもらい、アドバイスをいただけて助かっている。悩んでいた時に、様子をみてもらい、かかわり方等を押してもらい、安心して援助することが出来た。この１年で自分で出来ることも増え、友達にも興味をもち、望ましい成長の姿を多く見られるようになったと思う。双方の様子を伝え合うことが出来てよかった。子どもの発達について、わかりやすく教えてもらい、参考になる。見通しをもって保育が出来ている。子供の特性を知る以外にも、様々な視点から保育者が出来る環境やサポートを共有できる。また、課題や困りごとについても詳しく教えてもらい、コミュニケーションや生活において変化がみられた。児童の実態を把握してもらうことで、より良い支援に繋がるとおもう。難しいと感じるのは、学校の直接支援により、他の児童の集中が欠ける場面がみられること。他の児童の集中力が欠けない配慮をお願いしたい。可能であれば巡回後の園へのアドバイスを紙面や電話等で教えていただけるととても助かる。今後も対象児の成長に伴ったアドバイスをもらいたい。対象児童の椅子の調整をしてもらい、安定して座れるようになり、日常保育にとても役立っています。	訪問後に、ゆっくりとお話しができればと感じていますが、午後は、個別療育を行っているため、訪問職員が放課後電話等で対応ができないことが多い状況です。しかし、情報共有すべきケースに関しては、時間を調整してお電話させていただくようにしていますので、そういう場合は、先生方からもお電話いただければ、時間を調整して対応させていただきます。また、訪問時間が決まっており、先生方と情報共有ができないことが多いところは、必要に応じて報告書を送らせていただいております。 この1年は、訪問時の支援方法、介入方法について、先生方とお話をさせていただく機会が多くありました。訪問対象児が、困っている時に直接支援を行うことがありますが、訪問員がいることで、モチベーションの波が激しくなることがあり、その都度介入の仕方、支援方法を考えながら訪問支援をさせていただきました。また、他の児童の集中が欠けてしまうことも、先生方との情報共有の中で見えてきたことも多かったため、今後も、集団の中で生活していく対象児への支援（直接支援・間接支援・観察等）を先生方と情報共有しながら、適切な支援が行えるように、職員間で連携を図っていきます。